

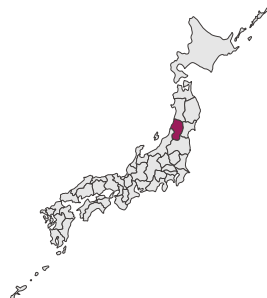
全国漁業信用基金協会 山形支所

1 山形県の紹介

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、北西部は日本海に面しています。県の面積は、国土面積の約2.5%を占める93万ha（全国第9位）であり、72%を森林が占めています。県の東部には奥羽山脈が南北に走り、それと並行して県の中央に出羽丘陵、西部には朝日山地、南部に飯豊山地が連なっています。これらの山系に源を発した「母なる川」最上川はひとつの都府県を流域とする河川としては国内最長を誇り、多くの支流を合わせて本流を形成しながら、県中央部を北に流れ、米沢、山形、新庄の三盆地及び下流域に庄内平野を形成して日本海の酒田に注がれます。地域は、日本海に面する庄内地域と内陸部に属する最上、村山、置賜の4地域に分けられています。

県の特産品は庄内平野の稲作と、新庄・山形・米沢盆地の寒暖差を利用した果樹栽培（さくらんぼ・西洋なし・りんご・ぶどう・もも）等が有名です。観光スポットは、松尾芭蕉の句で有名な宝珠山立石寺、日本三大樹氷のひとつである蔵王、大正ロマンの面影を色濃く残す温泉街が人気の銀山温泉、北前船で栄えた湊町酒田の山居倉庫、クラゲの展示種類数が世界一の鶴岡市の加茂水族館等があります。

グルメでは、県民のラーメン好きは突出しており、総務省の家計調査によると、



2023年の中華そばの1世帯あたりの年間支出額（外食）は、山形市が17,593円で、2年連続の全国1位に輝きました。ラーメン店の数も多く、人口10万人あたりの店舗数も全国1位であります。また、昨年10月に東京都で開催された「日本ご当地ラーメン総選挙」では酒田ラーメンが日本一に選ばれました。

2 山形県の水産業

北部日本海に位置する本県の海岸線は、秋田県境の三崎から新潟県境の鼠ヶ関まで約135km（飛島含む）と、海に面している39都道府県中38番目と短いうえに単調であり、ほぼ中央から北は砂浜地帯、南は岩礁地帯となっています。一方、本県唯一の離

島である飛島は、周囲のすべてが岩礁に囲まれ、比較的变化に富んだ海岸線（約11km）となっています。

湾のない直線的な海岸線と冬季の時化などの地理的条件のため養殖業は発達せず、ほぼ全量が漁船漁業による天然物の水揚げ



トラフグ（提供：山形県）



庄内おぼこサワラ（提供：山形県）



庄内北前ガニ（提供：山形県）



ヒラメの畜養試験（提供：山形県）

となっています。令和4年の漁獲量は約380トン、漁獲金額約25億円であり、魚種別ではスルメイカの漁獲量が最も多く、次いでマダラ、ベニズワイなど、季節ごとに約130種類もの多種多様な魚介類が水揚げされています。

庄内地域の沿岸部は庄内浜と呼ばれており、上記水産物のみならず四季折々の豊富な農産物にも恵まれていることから「食の都庄内」としてPRしています。

近年、本県漁獲量が減少傾向であることから魚価向上の取組みが急がれており、漁業関係者、流通関係者及び行政で構成する「庄内浜ブランド創出協議会」を設立し、関係者が一体となって庄内浜産水産物全体を

牽引するブランド魚の創出に取り組み、「天然トラフグ」「庄内おぼこサワラ」「庄内北前ガニ」の3つのブランドを創出しました。

なかでも「庄内北前ガニ」は全国に先駆け1か月早く漁獲される強みを活かし、選別基準の確立、品質向上対策のマニュアル化、PR強化に取り組みブランド構築を進めることにより、庄内浜産ズワイガニの単価向上を図っております。

更に漁船漁業に依存していることから水揚げが安定しないといった課題に対して、県施設等を活用した畜養試験を行い、その結果を関係者で共有し、活魚出荷など出荷形態の多様化に取り組みすることで、庄内浜産水産物の安定供給を目指しております。

3 山形支所の概要

- 住所：山形県酒田市船場町二丁目2番1号
- 電話番号：0234-24-2604
- 運営委員長：加賀山 祐
- 執行役員：芝田 秀樹
- 会員数：55名（令和4年度末現在）
- 出資金残高：659,100千円（同）
- 保証残高：402,868千円（同）
- 職員数：3名



鳥海山

4 山形支所の取り組み

近年、当支所の保証引受は漁船リース事業等の近代化資金が主体となっていますが、気候変動等による漁場環境の変化に加えて、水産資源の減少、漁業の担い手の減少等の理由から令和4年度末保証残高はピーク時の10分1以下に減少しています。

当支所といたしましては、漁業者に対しより良質な保証サービスを提供できるよう、融資機関等との連携を密にするとともに、保証審査の迅速化や保証審査能力の向上、期中管理の強化等に取り組み、本県水産業の発展に寄与してまいります。